

No. 7

首都直下地震対応へ、「揺れ」を感じて・ 測って・備える、都市と都民の強靭化事業

1.6 億円程度
(事業期間3年間)

被害を低減するには、都民とその人が属する組織や機関、地域社会が一体となつた防災行動が求められます。新たに1千台の室内震度計ネットワークを構築し、WEB防災地図と連携して訓練し、防災を自分ごと化します。

日常生活で室内震度を計測できます

室内震度計のプロトタイプです



大規模一斉訓練で支援と受援を考えます

シェイクアウト訓練もその一環です



DROP!



COVER!



HOLD ON!



WEB防災地図はハイパーレイヤリング技術で多数のハザード情報を簡単にマッシュアップできます

専用のタブレットで各種情報を確認して備えます

○室内震度計 1 千台の設置により、都内に高密度の地震観測網ができあがります

- ・ 本事業では個人・団体が室内震度計を設置することで、戸別の室内の揺れを専用のタブレットで確認できると共に、気象庁等の都内地震観測地点より一桁多い 1 千地点の情報を事前対策・応急行動・事後対応に活用することが可能です。

○事業への参加者が「自分ごと」化することで、防災意識を高めます

- ・ 1 千人以上のモニタリング参加者（個人、企業・学校、公共団体等）と共に実証実験（有感地震時の調査及びシェイクアウト訓練等）を行うことで自分ごと化し、併せて関連データの収集・分析を行い、都の防災対策につなげます。

事業実施による効果

防災対策を平時と災害時を分けないフェーズフリーに捉えることで、日常生活に取り入れやすい防災習慣が形成され、東京都の強靭化に大きく貢献します。